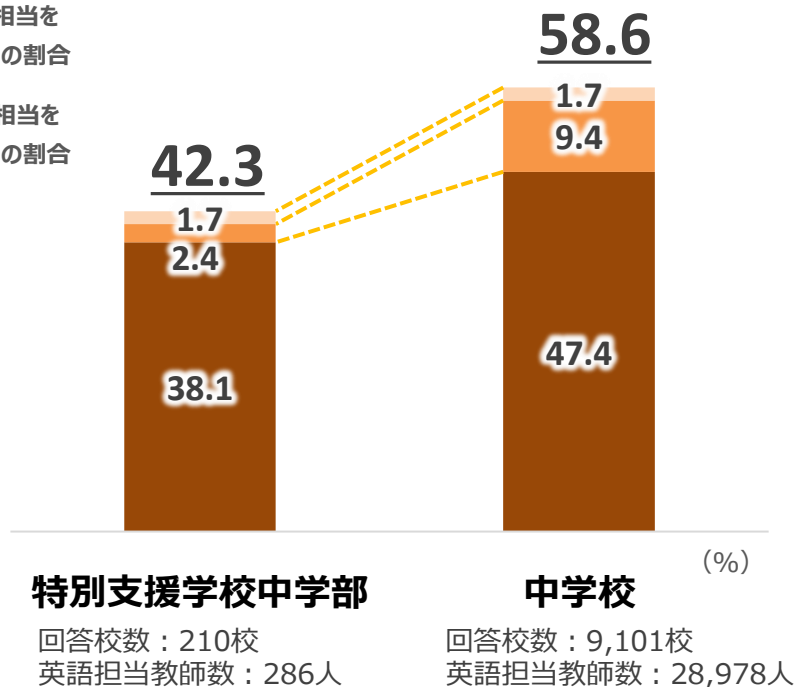


# 特別支援学校（中学部・高等部）・中学校・高等学校の 教師の英語力（CEFR B2レベル相当以上）

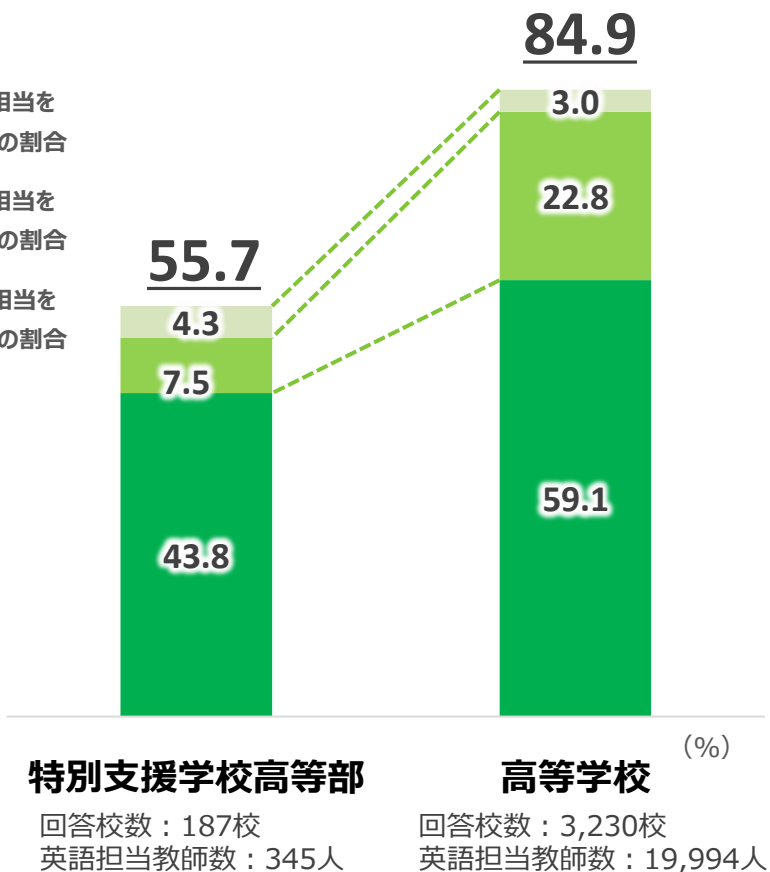
令和8年6月23日  
特別支援教育WG  
参考資料7

- **CEFR B2レベル相当以上**を取得している教師の割合は、中学校・高等学校に比して、特別支援学校中学部・高等部の方が低くなっている。

- CEFR C2レベル相当を取得している教師の割合
- CEFR C1レベル相当を取得している教師の割合
- CEFR B2レベル相当を取得している教師の割合



- CEFR C2レベル相当を取得している教師の割合
- CEFR C1レベル相当を取得している教師の割合
- CEFR B2レベル相当を取得している教師の割合



※ ここでの「教師」とは、調査基準日時点において特別支援学校・中学校・高等学校に所属し、外国語（英語）の免許状（免許状の種類は問わない）を所有し、かつ英語の授業を担当している者（ただし、臨時的任用の者及び非常勤講師は除く。）を指す。R7は特別支援学級を含む。特別支援学級及び特別支援学校中学部については中学校、特別支援学校高等部については高等学校の目標及び内容に準ずる英語の授業を担当している者を対象としている。

※ 「第2期教育振興基本計画」では、英検準1級程度以上（CEFR B2レベル以上）を取得した英語担当教師の割合について、中学校は50%以上、高等学校は75%以上を目標としていた。

※ 上のグラフに示す数値は小数第二位を四捨五入したものである。

## ICT機器の活用状況（特別支援学校中学部・中学校）

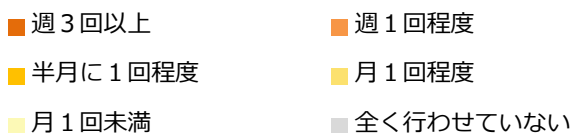
- 特別支援学校中学部は、中学校に比して、英語の授業における様々な場面において、ICT機器を全く活用していない学校の割合が高い傾向にある。

## 特別支援学校中学部

回答校数：210校

## 中学校

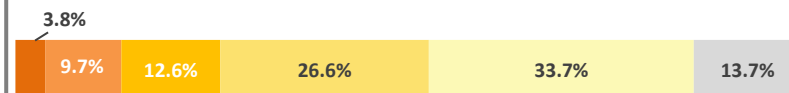
回答校数：9,101校



学習者用デジタル教科書の活用



発話や発音などの録音・録画



人との文字でのやり取り（電子メールやSNS、チャット等）



オンライン会話（遠隔地の生徒や教師、ALT等と英語で話す交流等）



※ 令和7年度の状況を調査したもの。

※ 英語の授業におけるICT機器の活用状況（AIを活用したものを除く。）を調査したもの。

※ 中学校には特別支援学級を含む。特別支援学級及び特別支援学校については、中学校の目標及び内容に準じて実施している英語の授業が対象。

※ 「発話や発音などの録音・録画」はAIを活用した練習等のための録音・録画を除く。

※ 「人との文字でのやり取り（電子メールやSNS、チャット等）」は英語で入力している場合に限る。

※ 全学校数を分母として割合を算出。

※ 上のグラフに示す数値は小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が100.0%とならない場合がある。

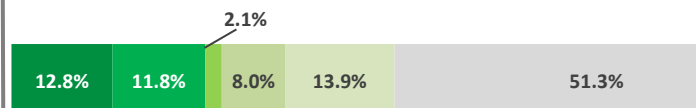
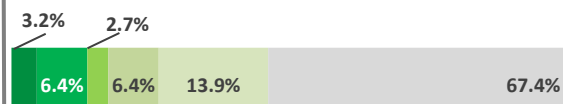
※令和7年度英語教育実施状況調査の結果を基に文部科学省で作成

## ICT機器の活用状況（特別支援学校高等部・高等学校）

- 特別支援学校高等部は、高等学校に比して、英語の授業における様々な場面において、ICT機器を全く活用していない学校の割合が高い傾向にある。

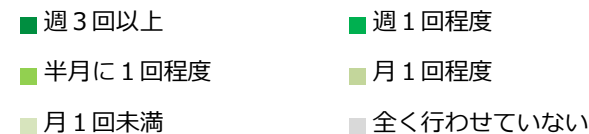
## 特別支援学校高等部

回答校数：187校

発話や発音などの  
録音・録画人との文字でのやり取り  
(電子メールやSNS、チャット等)オンライン会話  
(遠隔地の生徒や教師、  
ALT等と英語で話す交流等)

## 高等学校

回答校数：3,230校



- ※ 令和7年度の状況を調査したもの。
- ※ 英語の授業におけるICT機器の活用状況（AIを活用したものを除く。）を調査したもの。
- ※ 特別支援学校については、高等学校の目標及び内容に準じて実施している英語の授業が対象。
- ※ 特別支援学校高等部・高等学校においては、「学習者用デジタル教科書の活用」について調査を行っていない。
- ※ 「発話や発音などの録音・録画」はAIを活用した練習等のための録音・録画を除く。
- ※ 「人との文字でのやり取り（電子メールやSNS、チャット等）」は英語で入力している場合に限る。
- ※ 全学校数を分母として割合を算出。
- ※ 上のグラフに示す数値は小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が100.0%とならない場合がある。

- 特別支援学校高等部におけるALT等の参画状況は、高等学校に比して低くなっている。

| ALT等が参画する時数割合 | 特別支援学校高等部（187校）              | 高等学校（3,230校） |
|---------------|------------------------------|--------------|
| 75～100%       | 1.4%                         | 4.2%         |
| 50～74%        | 7.0%                         | 8.2%         |
| 25～49%        | 13.6%                        | 32.7%        |
| 1～24%         | 48.8%                        | 53.2%        |
| 0%            | 29.1%                        | 1.7%         |
|               | } <u>8.4%</u> } <u>12.4%</u> |              |

| 具体的な参画の内容  | ALT等が参画する学科の割合<br>（特別支援学校高等部） | ALT等が参画する学科の割合<br>（高等学校） |
|--|-------------------------------|--------------------------|
| ①教師とのやり取りを生徒に示すやり取り・発表のモデル提示                                     | 67.6%                         | 97.0%                    |
| ②パフォーマンステスト等の補助  | 38.0%                         | 88.6%                    |
| ③生徒のやり取りの相手  | 68.5%                         | 97.0%                    |
| ④発音のモデル・発音指導   | 62.9%                         | 95.4%                    |
| ⑤生徒の発言や作文等に対するコメント・フィードバック                                       | 60.6%                         | 95.7%                    |
| ⑥英語の授業以外の授業や学校行事での生徒との交流   | 30.0%                         | 72.5%                    |
| ⑦授業外での教育活動<br>（例：部活動、個別の英会話練習、異文化理解のための学習、ディベート大会、スピーチ大会等に向けた指導） | 13.1%                         | 74.2%                    |

※ ここでの「ALT等」とは、特別支援学校高等部・高等学校の英語の授業などで計画的・継続的に参画している者を指し、英語以外の外国語を担当する者は含まない。特別支援学校高等部については、高等学校の目標及び内容に準じて実施している英語の授業が対象。

※ 「ALT等が英語の授業の半分以上に参画している学科の割合」「ALT等が参画する学科の割合」は「普通科」「英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科」「その他の専門学科及び総合学科」（特別支援学校高等部の「専門教育を主とする学科」を含む。）の回答を合算して集計している。「その他の専門学科及び総合学科」「専門教育を主とする学科」について、学科が複数ある場合はまとめて1つの学科として回答しているため、必ずしも学科別の回答ではない。

※ ①～⑥は英語の授業における活動であり、ALT等が参画する時数割合を「0%」と回答した学科も分母に含めて「ALT等が参画する学科の割合」を算出。

※ 上の表に示す数値は小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が100.0%とならない場合がある。また、割合の合計は小数第二位を四捨五入する前の数値を合計して算出しているため、四捨五入後の割合の合計と一致しないことがある。